



僕たちデブとノッポのコンビです。今年二月二六日、展示館を男三人、女二人でたずね、その後にも何回かたずねたデブとノッポのコンビです。僕達仲よし数人は第五福竜丸で被害にあった人々が少しでも楽になれるように…(イコール)戦争がこの世からなくなるようにというねがいのもとにはじめはバッチを、そして中学生になった今はタイピンをしていました。しかし、うっかりそれをなくしてしまっ

船を見つめる瞳

### 展示館への手紙

僕たちデブとノッポのコンビです

です。いくらさがしてもないのです。ですから送っていただきました。小学校の頃は、パンパンに張りつめていた心が今はいくらかやわらかくなりました。そして、原爆こ児のためのつるやボ金などのボランティアも出来るようになりました。僕達も一人人として、心から願っていますので、平和協会の方々も精一杯がんばって下さい(川崎市立京町中一年 平本清治と大谷英雄)。

「福竜丸だより」をゼミの仲間です。いつも「福竜丸だより」をありがとうございます。現在、私は宮城教育大学で 平和教育ゼミ という自主ゼミ(学生が独自に作り、活動していくゼミ)を作り、学んでいます。

四月から七月までは主にヒロシマ・ナガサキのことを学び、七月には原爆パネル展を開き、八月にはヒロシマに行ってきました。ゼミの仲間は七人ほどで、今後

### 「福竜丸だより」をゼミの仲間

どんなことができるかわかりませんが、より多くの人と核のことについて、平和について、いっしょに話せるようになればと、地道な活動をしていくつもりです。

テキストはこれから福竜丸のところへはいります。「福竜丸だより」をゼミのみんな読んで参考にしたいと思っています。それでは、みなさんもがんばって下さい(仙台市 志方玲子)。

### 編集後記

▼新木場を回り夢の島へ。最近増えている小学校の社会科見学のコースである。夢の島では現在、これまで水はけの悪かった競技場を全面改修中。展示館の隣接地には、ユーカーリの温室とビニールハウスの完成し、多摩動物園のコアラ用の苗木が育てられている。また、これまで立入禁止だったかつての貯木場に面した区画には、芝生の苗が植えられ、ただ今保養中。「完成したらゴルフ愛好者のたまり場になるのでは」と、今から都の管理事務所の人たちの心配の種。八七年春には夢の島隣接の新木場の入口に地下鉄有楽町線が開通予定…。夢の島はまだまだ変貌しそうです。

▼「各新聞社のピキニ事件に関する記事を知りたい」との、読者からの声が寄せられている。今後定期的に、ピキニ事件に関する主な新聞報道(出来れば雑誌等)を「福竜丸だより」で紹介していきたいと思う。

▼今年も多数の御意見、御要望をお寄せ下さい(は)。



(財) 第五福竜丸平和協会  
〒136 東京都江東区夢の島3-2  
都立・第五福竜丸展示館内  
電話 (521) 8494



船はいま よみがえる

永井和子

宇宙飛行士が  
ロケットでとぶもつと前から  
地球は青い星だった  
青い地球を  
やさしく包んできたのは 海  
何億何千万の生命を  
産みだしたのは 海  
愛と希望を育ててきた海だった

その海に生きた船は  
労働の喜びを潮の香に呼吸し  
家族のしあわせと平和を求めて  
ひろびろと網を打ち  
豊かな幸と思いい出を運んできた

一九五四年三月一日  
海はひき裂かれ  
船は死の灰を浴びて倒れた  
労働の喜びは潰え去った  
苦い涙が故郷の空を掩って三十年  
この海に平和は まだ還らない

海を穢したものをみつめる瞳  
船を傷つけたものをみつめる瞳  
平和をみつめる美しい怒りの瞳  
みつめられて 船は  
いま よみがえる

### 敗戦四十周年を迎えて

三宅泰雄

今年（一九八五）は第二次世界大戦の終り、わが国の徹底的な敗戦の四十周年です。いかえれば、広島・長崎の原爆被災の四十周年にもあたります。わが国は焦土と化し、二度と戦争をすまいと誓いあってから四十年たったいま、日本はいったいどうなっているのでしょうか。たしかに、この間になしとげられた経済的な復興と繁栄ぶりには、目をみはるものがあります。しかし、被爆者の大多数がすでに高齢に達しているにもかかわらず、政府はいまだに、十分な援護の手をさしのべてはいません。

一方、核兵器は当時とは比べものにならないほどに増強され、いまだにはいつ核戦争がおき、人類の絶滅がもたらされても、ふしぎではないような状況がつづいています。わが国はアメリカの核戦略に追随し、ふたたび強引な軍拡をおし進めています。このままでゆけばわが国が核戦争にまきこまれることは必至です。

私たちは、敗戦四十周年を迎えるにあたって、あらためて、広島・長崎・ビキニの惨害を二度とおこさないため、現在、わが国がおかれている危険な状況を反省し、それから脱け出す道を、真剣に模索すべきではないでしょうか。また一刻も早く、被爆者援護への道が開かれるようぞんじやみません。

なお、昨年は、第五福竜丸展示館におきましては、来館者総数が五十万人の大会をこえ、修学旅行その他の団体による見学者数も、急速にふえてまいりました。懸案の船の修理も、東京都のお力で、着々と進んでいます。

本協会の事業も、ますます社会的に重要さを増してまいりました。どうか、今年もよろしくおねがいいたします。  
(第五福竜丸平和協会会長)

### 写真集いよいよ出版 『母と子でみる第五福竜丸』

写真集『母と子でみる第五福竜丸』が一月十日発売される。編集・第五福竜丸平和協会。A5判一二二頁。定価千二百円。発行所・草土文化。

正確で簡潔な写真集、は長い間求められていたが、一年余の準備を経てやっと発行された。はじめの写真集でもある。企画・原稿執筆・校閲・写真収集・選択・調査・関係者へのインタビューなど理事・事務局が分担し、各新聞社はじめ多くのカメラマンの協力も得た。焼津市の協力もあった。

収録された写真は約百点。ビキニ事件に関する数少ない写真の主要なものを網羅し、第五福竜丸の

被災から乗組員の入院、市民への影響、太平洋島民の被ばくと現在にいたるまで、全容が相当の迫力をもって示される。

ビキニ水爆被災30周年の歴史の中で現在につながるものとして全体をとらえるとの視点で、当時の関係者の証言で綴る工夫もされた。国民的な原水爆禁止運動の誕生や保存運動にもかなりの紙数をさき、五〇万人をこえる見学者を迎えた展示館の現状も紹介され、その熱い願いをにじませている。

「子どものしあわせ」をはじめ良心的な児童書の出版で知られる草土文化の「母と子でみる」の写真シリーズの一冊として出版された意味も大きい。被爆40周年の今年ひろく普及、船を見つめる瞳をさらに大きくしていきたい（ぜひ一読とまわりの人に紹介を）。

### 船体の修理 一月着工

いよいよ第五福竜丸の本格的な修理がはじめられる。新春早々、東京都、第五福竜丸平和協会、工事担当者らの話し合いがもたれ、昨年六月に提出された検討がすすめられてきた文化財建造物保存技術協会による

修理計画案（総工費約八千万円・期間一年）にそい、

一月中旬に工事が着工される。当面三月末まで、60年度予算による工事計画は現状ではまだ確定していないが続行の予定。

### 写真集いよいよ出版

いよいよ第五福竜丸の本格的な修理がはじめられる。新春早々、東京都、第五福竜丸平和協会、工事担当者らの話し合いがもたれ、昨年六月に提出された検討がすすめられてきた文化財建造物保存技術協会による

修理計画案（総工費約八千万円・期間一年）にそい、

一月中旬に工事が着工される。当面三月末まで、60年度予算による工事計画は現状ではまだ確定していないが続行の予定。

### ビキニ事件30周年

#### 核兵器禁止をねがう科学者フォーラム④

去る七月三〇日、東京・神田の学士会館で「核兵器禁止をねがう科学者フォーラム」(第五福竜丸平和協会共催)が開かれた。前号にひきつづきその報告の要旨を収録する(本号完結)。なお要旨は録音テープから編集部がまとめた(表題・文責編集部)。

### ビキニ事件と今日の科学者の課題(2) 核時代のもとの絶対平和主義

田中 正(京都大学理学部教授)

一九五五年のラッセル・アインシュタイン宣言の中の「人類が生き残ることを他のあらゆることに優先しなければならない」はアインシュタインの原則といわれている。核兵器の問題を人類という立場に位置づけたという点では、湯川先生は、五四年三月三〇日、ビキニ事件が新聞に報道された二週間後、毎日新聞に「原子力と人類の転機」という文章の中で次のように書いているが、あれほど慎重な湯川先生には異例なことである。「原子力の脅威から人類が自己を守るという目的は、他のどの目的より上位におかれるべきではなからうか。私は科学者であるがゆえに、原子力対人類という問題を、

より真剣に考えるべき責任を感じずる。私は日本人であるがゆえに、原子力対人類という問題を、より真剣に考えるべき責任を感じる。私は日本人であるがゆえに、この問題をより身近かに感ぜざるをえない。しかしそれは私が人類の一員としてこの問題を考えるということと、決して矛盾してはいない。と信ずるものである」湯川先生のこうした考えは、突然出来たのではなく、バックグラウンドに五年間のアメリカでの生活がある。湯川先生はブリジストンの国立技術研究所のオッペンハイマーに招かれて、四八年九月にアメリカに渡り、五三年七月に帰国した。翌年にはオッペンハイマー事件がおこ

るわけだが、湯川先生の身近なところからこうした多くの事件がおきている。また湯川先生は核時代のもとの絶対平和主義の考え方を主張し続けた。このテーマは現在でもとけていない問題であり、あらゆる分野の専門の立場から研究し、創造的に議論することは今後の科学者のひとつの課題でもある。絶対平和主義の考え方は、日本では、平和憲法と広島、長崎の被爆の経験があるので受け入れやすいが、国際的にはまだまだ「力の均衡」の考え方が大きな力をもっている。五七年に第一回の「パグウォッシュ会議」が開かれ、以来今日まで三四回、ねばり強く続けられているが、二つの考え方が根強くある。その後、理想だけではダメである、現実には各国の政府にも影響を与えなければと「核抑止論」の考え方が出てきた。

一方、「科学者京都会議」は六二年に開かれたが、第一回目から「核抑止論は科学的にも破たんする」と主張、八一年の第四回には「人類の存続のためには、核軍縮の達成が必要であります。しかし核軍縮さらには全面完全軍縮ですら核時代に生きる人類の課題のすべてでないことは明らかであります。最終的目標は、すべての国の安全がそれぞれの国の軍備を必要とすることなしに保障されるような世界システムを樹立することであります」と声明、今日まで湯川先生の立場を貫いている。その後、京都会議の成果を展開しようと、平和署名を行ない約四千人(自然科学者、人文社会系)の署名を集めた。このことは日本だけでなく、ヨーロッパの反核運動にも伝わり、大きな影響を与えた。

